

# \* みみだより \*

第7号

2020. 11.26

埼玉県立特別支援学校  
大宮ろう学園聴覚支援担当

choukaku@ohmiya-sd.spec.ed.jp

今回は2号にわたりイヤモールドを特集します。今回はイヤモールドの役割や「こんなときどうする？」を中心にお知らせします。次回はイヤモールドのお手入れを中心にお知らせします。

## ～イヤモールドの役割～

1. 補聴器が耳から外れないようにする
2. 補聴器からの音もれによるハウリングを防止する
3. 補聴器の音を音響的に補整する（ベント）
4. ファッションや見た目をよくする

## しっかり入れましょう！



ハウリングの原因になるのでしっかりと耳に入れましょう。本人はハウリングに気づきにくいので周りが教えてあげましょう。

## アレルギー対策のイヤモールドの情報

イヤモールドをつけるとかゆくなったり、赤くなったりして、補聴器がつけられないという子がいます。アレルギー対策として下記のようないくつかの素材や方策があるそうです。

- ハード（ボールがぶつかったりすると外耳道を傷つける心配はある。）
- 炭入り（色は真っ黒。外耳道のみを炭入りにして見える部分は透明にすることもできる。）
- 皮膚に接する面積を少なくする。カナルタイプなど（人工内耳の場合は小さくても大丈夫）
- シリコンコーティングする（ソフト素材にコーティング。半年くらいは持続）
- サーモソフト
- シリコン

※費用については業者さんとの相談の際に説明を受けてください。

## イヤモールドのチューブがゆるい時は？

古くなると、補聴器やイヤモールドが抜けやすくなります。



補聴器が簡単に抜けるようなら、すぐに交換しましょう！  
補聴器紛失の原因になります。  
自立活動準備室で無料で交換できます。  
持ってきてください。

## ピーピー音（ハウリング）が止まらない時は？



①補聴器に音が入る

②補聴器から出た音が  
マイクに入る

③ぐるぐる音がまわる

補聴器のハウリングは、補聴器によって増幅された音がまたマイクに入り、それをまた増幅…と繰り返すことで起こります。つまり、音が外にもれると、ハウリングが起こりやすいということです。ハウリングの原因をつきとめて、鳴らないように対応しましょう！

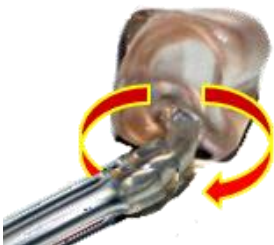
プロショップ大塚HPより



最も多いハウリングの原因は、イヤモールドが耳にあっていないためです。

小さいお子さんの場合、成長とともに耳穴が大きくなるため、イヤモールドが緩くなり音漏れをおこします。乳幼児は半年に1回くらい、小学生ならば1年に1回。中学生以上ならば2年に1回くらいの割合で作り直すと良いでしょう。6ヶ月過ぎればだいたい福祉で作成が認められます。埼玉県ではほとんどの市町村で医療機関の意見書が必要となります。作成後、イヤモールドが合わない場合は、3ヶ月以内は無料で再作成ができます。作成したお店・自立活動準備室に早めにお知らせください。

## イヤモールドの根元がぐるぐる回ってしまう時は？



イヤモールドの根元がぐるぐる回る場合は、瞬間接着剤を根元に少したらして乾かせば、一時的に固定することはできます。（取付角度が大事なので、自信のない場合は、作成した業者・販売店等に相談してください）。ただ、中に接着剤が入らないので、しばらくするとまた回るようになります。業者・販売店等に相談して、しっかり固定、あるいは作り直しをしてもらいましょう！